



非住宅部門  
事例

12

空き家利活用コンテスト2023 優秀賞

## Yashago Base

地域の若者だけでなく高齢者も集う  
今と未来の架け橋となる新たな空間



境港玄孫プロジェクトは、「100年先の未来の玄孫が幸せに暮らせる街」を目指し、地域活性化を目的とした任意団体。拠点施設を模索していたが当初は理想の物件が見つからず、メンバー自ら市内を歩き回って物件を探し、境港市の旧自転車店跡を活動拠点に選定。所有者からは自由な改装を許可され、放課後の子どもたちの活動に加え、高齢者が集まるスペースとしても利用できるよう改装を行った。

改装にあたっては、鳥取大学学生にヒアリングを行い、求められる施設のイメージを把握。「お洒落な施設でなければ人が来ない」という声を受け、デザイン会社に設計を依頼した。

1階の旧店舗スペースはカフェ風展示スペースとして土間コンクリートや壁棚、机を新調。2階は間仕切り壁を取り払い人が集まれる広々とした空間に。そして施設の大きな特徴である足湯は、地域の交流の拠点として設置した。この施設は、地域の新たな魅力となっている。

小中高生から高齢者まで、世代をまたいだ人々が集まる活動拠点であるこの施設は、県道沿いに位置し、印象的な真っ赤な扉と大きなロゴが特徴。足湯を併設した民間の施設は他にあまり例がなく、朝から夕方まで全世代の居場所づくりとなっている。

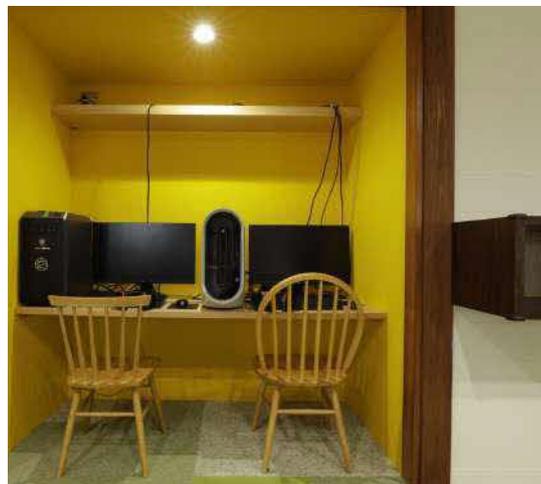
特徴のある赤いドア。机や壁などはこだわりの色合いとデザインで、以前の店舗スペースをカフェ風展示スペースに一新。「お洒落な空間でなければ人が集まらない」という大学生からのアドバイスをもとに、PCスペースや気軽に集まれるスペースに仕上げた。



広い開口部に面したPCスペースやリラックス空間。日光が入り気持ちの良い空間に生まれ変わった。

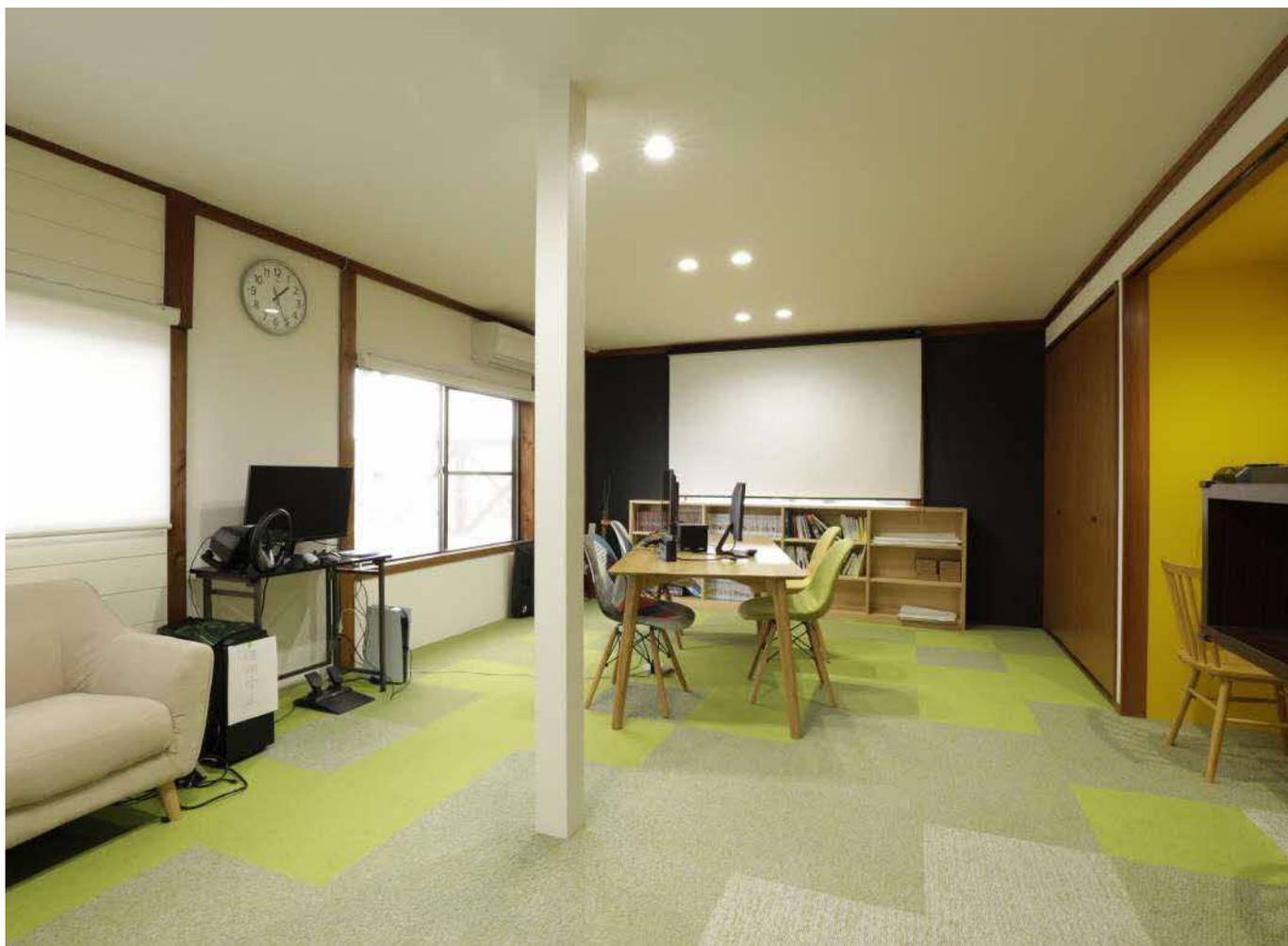


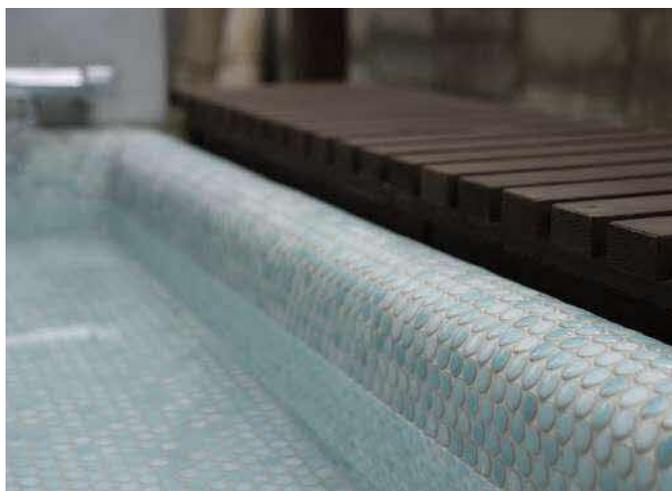
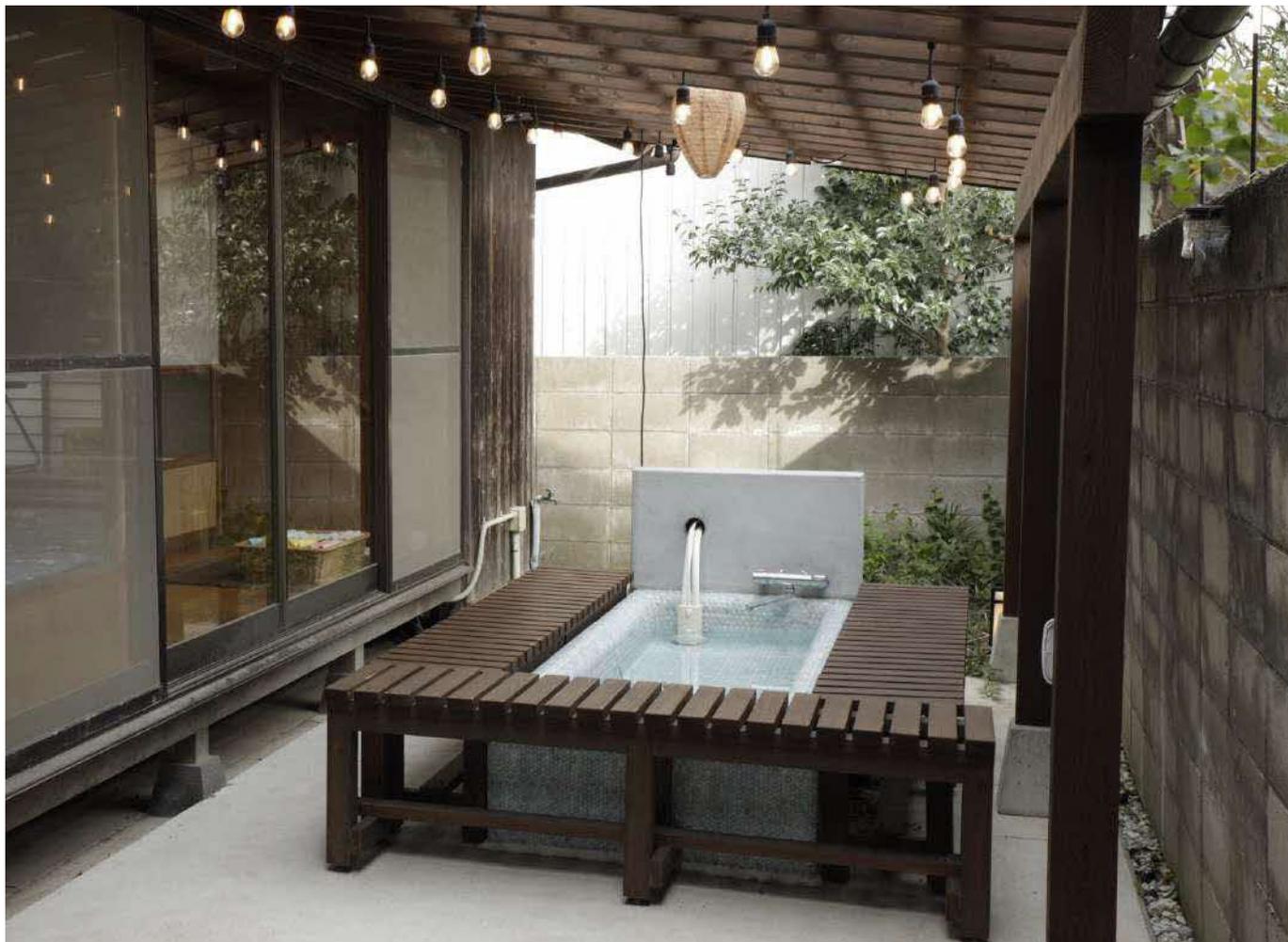
学生が集まり楽しめる「eスポーツ」を軸に考え、PCスペースは会話がしやすい雰囲気を大切にしている。



収納スペースをPCスペースに刷新。ビビットな色合いがアクセントになっている。

中高生がリラックスできるミーティングスペースは、居心地の良いソファを設置。カーテン代わりにもなるスクリーンを備え、創作活動やプレゼンテーションも可能な多機能空間に仕上がった。





施設の特徴になる足湯を設置し、幅広い世代が交流できる場を創出。左官によるタイル貼りでクラシックな銭湯の雰囲気を演出し、リラックスできるよう照明も工夫した。縁側から隣接するリラクゼーションルームは多目的に使い、明るい雰囲気で世代を超えたつながりが生まれる。



[ DATA ]

- 【所在地】 境港市 中野町 507    【構造】 木造 2階建て
- 【築年月】 1963年
- 【改修後の用途】 小中高一体型地域活性活動を目的とした民営クラブ
- 【間取り構成】 個室5室・キッチン2ヶ所・階段室・トイレ1ヶ所
- 【改修期間】 2023年1月～2023年3月
- 【改修費用】 約1,150万円(設計等費含む)
- 【設計者】 ビークランプデザインスタジオ